

安心をすべての人に届けたい

公式ホームページ
http://sakuraisuguru.jp/



well-being 通信

北本市議会議員
桜井すぐる

well-being (ウェルビーイング): 幸福、健康で満たされた状態

2025年 5月号 保育所の待機児童問題、令和7年度で解消 中丸第二学童保育室が完成!さらなる生活環境改善を

近隣と比較しても突出して多かった北本市の待機児童(令和6年度は県内で2番目)

北本市は人口減少が続いている一方、子育て世代の転入者の増加や共働き世代の増加を背景に、保育所や学童保育室の利用者が増加しています。

保育所の待機児童数は令和6年4月1日時点で32人。県内では白岡市の36人に次いで多くなっていました。近隣では、桶川市、鴻巣市ともに待機児童は発生しておらず、北本市だけが突出して多い状況でした。

年度	利用児童数(0~2歳児)			待機児童数
	公立	私立	合計	
R3	111	249	360	5
R4	99	262	361	23
R5	93	275	368	33
R6	99	292	391	32
R7	117	302	467	0

幼稚園の認定こども園への移行と小規模保育施設の新設により待機児童が解消

令和6年度の年齢別の待機児童数を見ると1歳児が21人、2歳児が11人と、保育士の配置基準(子ども1人当たりの保育士数)が厳しい低年齢に集中していました。

北本市では待機児童の解消を図るため、2歳児までの保育を行う小規模保育施設(定員19人以内)の誘致を進めました。令和5年度に保育室びおもす、令和6年12月にさくら保育園、令和7年4月につばみの詩保育園と3つの施設が開園しました。さらに幼稚園が認定こども園に移行して3歳児未満の受入れを開始したことも定員の増加につながりました。

0~2歳児の利用児童数は、令和5年度までは360人台でしたが、令和7年度には0~2歳児の定員を467人に増加させることができました。これにより待機児童も解消されました。

保育士の確保も大きな課題 市内新規就労保育士に奨励金を交付

待機児童を解消するためには、保育施設の床面積を増やすことの他に、保育士の数を増やさなければなりません。特に0~2歳児は1人の保育士が担当できる子どもの数が少ないため、多くの保育士が必要となります。

私は議会の一般質問において、松戸市や江戸川区の事例を紹介し、保育士に直接支援をする市独自の補助制度の創設を求めました。

北本市では保育士を確保するため、市内の保育施設に保育士等として新規に就労する方に20万円の奨励金を交付する事業を令和5年度途中から開始しました。令和5年度は実績がなかったものの、令和6年度には7施設から14人分の申請があり、保育士の確保につながったものと思います。

利用児童数の増加で膨らむ経費 児童施設運営費は7年でほぼ倍増

保育施設の利用児童数の増加に伴い経費も大きく増加しています。民間保育施設の整備や運営に要する経費である【児童施設運営費】は令和になってから7年間でほぼ倍増しました。令和7年度当初予算額は約20.5億円(一般会計全体の7.3%)です。なお、このうち約15.2億円は国及び県が負担します。

人口の増加、特に子どもの増加は、財政面から見れば支出が増えることになります。ふるさと納税制度は「生まれ育ったふるさとに税制で貢献する制度」として設計されましたが、実際には返礼品を目当てにした節税制度になってしまっています。

大人になってからも、北本市に住み続けてもらうような施策が必要です。

児童施設運営費の推移

区分	決算・予算額
R元決算額	約10.6億円
R5決算額	約15.4億円
R6最終予算額	約17.6億円
R7当初予算額	約20.5億円

中丸第二学童保育室が完成！さらなる生活環境の改善を！



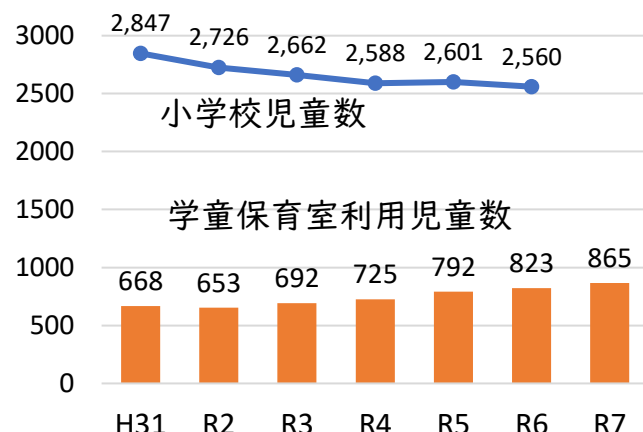
中丸第二学童保育室が令和7年4月に供用開始となりました。中丸学童保育室では混雑が顕著だったことから、中丸小学校の空き教室を活用して保育を行っていましたが、学童保育室から遠いことや調理場が独立していないことなど、運営面で大きな支障が生じていました。

そこで、中丸小に隣接する商工会駐車場の一部に新たな学童保育室を建設することを決定。昨年12月末にようやく施工業者が決定し、急ピッチで建設が進められ、令和7年4月からの供用開始に何とか間に合いました。落札業者は北本建設株式会社で落札金額は5980万円でした。



図面で見た時には少し狭いかなと心配していましたが、実際に入ってみると中は広く感じました。キッチンが独立しており、トイレも3つあり十分です。小さいながらも静養室が設置されており、気持ちを落ち着かせることができます。駐車場は商工会等と共用です。新たに舗装されましたが、入口は狭く、送迎時は混雑しそうです。譲り合って利用していただければ幸いです。

学童保育室の利用児童数は増加の一途
民設学童の利用者数も大幅に増加



小学校の児童数は減少傾向にありますが、学童保育室の利用児童数は増加傾向にあります(上グラフ)。学童保育室は混雑が酷く、増設・増床による混雑緩和は喫緊の課題です。

市では学童保育室の混雑緩和を図るため、令和4年4月から民設放課後児童クラブを西小学区と南小学区に設置しました。しかし、学校から離れていることもあり利用者が数人という状態で、学童保育室の混雑解消にはつながりませんでした。

そこで令和5年11月から民設クラブ利用者に対する補助制度を創設し、利用料金を月額2千円(本来は8千円)にまで引き下げました。さらに令和6年度から学童保育室の入室基準を厳格化したことで、学童保育室を利用できない人が民設クラブを利用するようになりました。これらの取組により、令和7年度当初の民設クラブ利用児童数は38人にまで増加しました。

なお、南学童保育室では混雑緩和を図るため一部の児童を石戸第二学童(旧栄学童)に専用バスで移動して保育を行っています。

このように様々な方法で混雑緩和を図っていますが、利用児童数は増え続け、多くの学童保育室において混雑した状態が続いています。老朽化している学童保育室もあることから、引き続き放課後の子どもたちの生活環境の改善を求めてまいります。

発行者：桜井すぐる後援会(代表：桜井 卓)
住 所：〒364-0034 北本市高尾1-166-6
電 話：090-9389-3572(桜井携帯)

元埼玉県職員。52歳。会派：緑風会 所属。
令和元年5月～北本市議会議員(現在2期目)
健康福祉常任委員会、議会運営委員会副委員長
埼玉中部環境保全組合議員

SNSでも情報を発信しています！



SAKURAI SUGURU, KITAMOTO



Xアカウント
@sakuraikitamoto

